

## 【取組内容①】Google Jamboard で複合図形の求め方を考える

## 【実践の目的】

Google Jamboard で作成した半透明化した既習の図形を重ねたり、組み合わせたりできるようにすることで複雑な複合図形を視覚的に捉えやすくする。また、他のグループの考えを共有して、考えを広げたり深めたりできるようにする。

## 【実践内容】

- ・Jamboardに半透明化した既習図形を用意する。
- ・既習の図形を重ねたり、組み合わせたりしながら図形だけを用いて立式する。
- ・共有をかけて考えを比較し、考えを広げたり、深めたりする。

## 【使用したアプリ】

Googleジャムボード

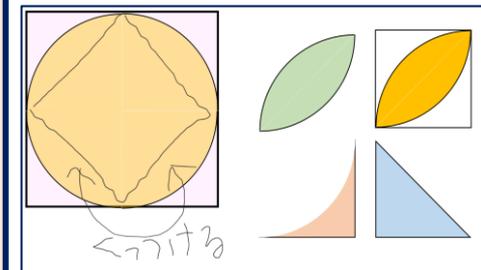
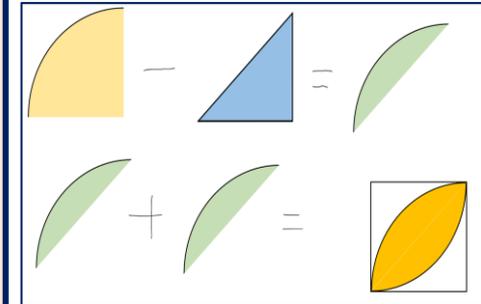
## 【実践を振り返って】

## ☆ICT活用が有効であった点

- ◎数値を用いずに図だけを用いたこと、タブレットを用いて繰り返し重ねたり、組み合わせたりできるようにしたことによって一人一人が試行錯誤しながら、図を用いて立式することができた。
- ◎グループの考えを共有することは、活発な話し合いを通して、新しい気付きや考えを得るうえで有効であった。また、「学び方」を継続して指導してきたことにより、分からないところをそのままにせず納得するまで確認し合ったり、足りない部分を補い正しい式を立式したりできた。
- ◎クラウドを活用することで、個人やグループの考えを瞬時に確認することができるため、個人、グループ、全体に適切な支援を行いながら授業を展開することができた。

## ★ICT活用の仕方で工夫が必要であった点

- △ICTを用いて考えをまとめさせたが、話し合い時にノートに書きながら考えを深める児童がいた。方法を制限するのではなく、何を使って考えるのかを児童一人一人が選択できるようにしてもよいのではないかと考える。
- △自力解決で多様な考えが出たが、グループで1つの考えに絞ったことで、一人一人が納得解を得ることができなかった。



# リーディングDXスクール事業【実践事例】

矢板市立矢板小学校

## 【取組内容①】タブレットを用いた授業での「学び方」を伝える

### 【実践の目的】

タブレットを使ってどう学ぶかを児童に伝えながら授業を展開することで「個別最適な学び」と「協働的な学び」一体的に充実させる授業を目指す。

### 【実践内容】

- ・図を示しながら「学び方」について指導する。
- ・適宜、学級の実態に合わせて、全体で「学び方」を確認しながら授業を展開する。

### 【実践を振り返って】

- ・タブレットを使ってどう学ぶかを教師と児童で共通理解することで、児童が自発的に動けるようになる。
- ・児童自身が「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点で動けるようになるには時間がかかる。教師は、長期的に粘り強く指導していく必要がある。

